



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

◎石叫 ■ 「説教と食事」
 七月十七日のサンディエゴ教会の月報に大倉先生の『パスター大倉の牧師室から』の欄があるが、それを読んで、思わず、アーメンと言ってしまった。
 「ブリティッシュ・ウィークリー誌の編集長宛てに、ある人がこんな手紙を書いてきました。『わたしは過去三〇〇〇回の説教を聞いてきましたが、何一つ思い出すことができないのです。ですから、もはや説教を聞く必要などはないのではないかと思っているのです』。この方の質問に答えようと、世界中からたくさんの手紙がブリティッシュ・ウィークリー誌に寄せられました。その中に一つだけ、この質問に決着をつけてくれた手紙がありました。そこにはこう書かれていたのです。
 『わたしは結婚して三十年になりました。その間に食べた食事は3万2850回で、そのうちの多くは妻が作ってくれました。ところが、私はそんなに食べているのに、その食事のほとんどを覚えていないのです。三日前に妻が作ってくれた夕食すら思い出すことができないのです。しかし、明らかながあります。そうです。たとえこれらの食事のことを覚えていなくても、私は確かにその食事によって栄養が与えられ、養われ、今にいたっているのです。それがなければ私はとくに餓死していたことでしょう』。大倉先生は続けて言う。礼拝説教も同じようなものです。たとえ語られたみ言葉を思い出すことができずとも、それは私たちの内に入り、霊の糧となり、それにより私たちは養われてきたのだと思います。これらのことを思うときに、これから皆さんと共に主を中心とした宴席につき、共に霊の糧にあずかることができることを神様に感謝します。一食の食事をぬいただけでも私たちは空腹を覚え、身体から力が失われるのですから、しっかりと霊の糧を食べ、霊的スタミナをつけて毎日を通していきましょう』
 「イスラエルの人々は人の住む地に着くまで四十年の間マナを食べた」(出エジプト十六・35)とある。イスラエルは毎日、天からのマナを食べて過酷な砂漠を生き延びてきた。四十年の間には、天の神の恵みを忘れて幾たびも文句を言うことがあったのだが、神の恵みで生かされてきたことだけは確かだった。ああ、何と神を忘れやすいお互いであることよ！ しかし、幾ら神の恵みを忘れても、一食でも食事を忘れる人はいない。肉体がそれを求めるからだ。そうであるならば、「しがが谷川を慕いあえぐ」(詩篇四二・1)ように、なおさら見えない神を飢え渴くように慕い求めたいものである。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウェスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

